

収蔵品紹介

明治 27 年 岐阜県土岐郡多治見町(現多治見市)で
父梅次郎、母なべの一人息子として生まれる。

明治 44 年 叔父虎次郎の次女、志づと結婚。

大正 11 年 京都市、宮永東山窯に工場長として勤める。

大正 14 年 可見郡久々利村(現可見市)大平の古窯跡で天目、古瀬戸片
採集、帰途路上で青織部片を拾う。
この年小山富士夫、北大路魯山人と出会う。

昭和 2 年 鎌倉に北大路魯山人築窯。
望まれて鎌倉山崎の星岡窯に移る。

昭和 5 年 名古屋関戸家所蔵の志野筍絵茶碗と同じ筍絵文様の
陶片を、当地久々利大萱牟田洞の古窯跡で発見。
志野などが愛知県瀬戸市で焼かれていたという日本の
陶磁器史の定説を覆す大発見であった。これ以後、
豊蔵は志野再現を志す。

昭和 8 年 星岡窯から当地大萱に移り築窯。
初窯を焚く。瀬戸黒茶碗1点のみ焼成。

昭和 16 年 大阪梅田、阪急百貨店で初の個展を開く。

昭和 21 年 多治見市虎溪山永保寺所有の山を、嶋田菊徳老師より借り
受け水月窯を築く。

昭和 30 年 重要無形文化財技術指定制度の第一次指定で、「志野・瀬戸
黒」の技術保持者(いわゆる人間国宝)に認定される。

昭和 35 年 光悦筆宗達金銀泥鶴下絵三十六歌仙和歌巻を発見、入手。

昭和 46 年 文化勲章を受章、同時に文化功労者として顕彰される。

昭和 57 年 財団法人豊蔵資料館設立が認可される。

昭和 59 年 財団法人豊蔵資料館開館。

昭和 60 年 永眠。



豊蔵使用の窯(非公開)

荒川コレクション



吉野山絵四方皿
尾形乾山 作(江戸時代)

豊蔵の創作意欲をかき立てた、古陶磁器・工芸品・
絵画たちと、美濃桃山陶の再現を追求した荒川
豊蔵の作品たちが織りなす極みの世界。

自作品



志野茶碗 銘「随縁」
昭和36年作

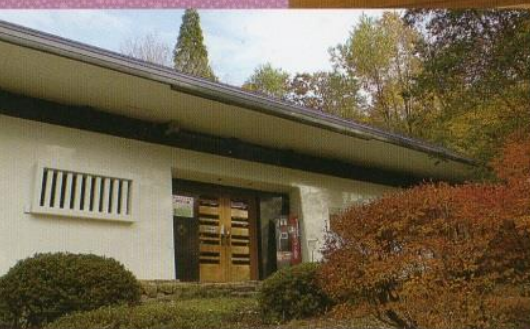


瀬戸黒金彩木葉文茶碗
昭和40年作

敷地内公開施設

- ・陶房(ロクロ場)
- ・居宅

※平成29年4月28日より



当施設は、陶芸家であり、志野・瀬戸黒で国の重要
無形文化財保持者に認定された故・荒川豊蔵が、自
身の作品やコレクションを公開し、見識を深めてい
ただきたいという思いから創設され、昭和59年4月
より開館いたしました。その後、平成25年4月に土
地・建物・収蔵品が、財団法人豊蔵資料館より可見市
に寄贈され、同年10月に荒川豊蔵資料館として再
オープン。平成29年4月からは、旧荒川豊蔵邸の敷地
を、居宅や陶房と共に公開しています。

館の外観は蔵をイメージした白壁造り、格子は萱
をデザインしています。館蔵品には、自作・自筆作品
と古陶磁器、工芸、古書画、出土陶片などの荒川コレ
クションがあります。

荒川豊蔵の遺志を受け継ぎ、偉業を世に広めてい
くと共に、作品とそれを生み出した源である美濃桃
山陶の聖地を多くの方に訪れていただきたいと存
じます。